

### 3. 「科学する心を育てる」ための実践研究 西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園

本園の保育目標の中に“科学する心”を育てる内容が多く含まれている。科学する心とは自然に積極的に働きかける幼児の姿であり、もう一つの側面は、身近な素材を使って生活や遊びに必要なものを創ったり、試したりすることを“科学する心”をとらえている。

“科学する心”を育てることは、友だちと共に考え合い様々な活動を通して、将来人や環境と関わる際の適切な判断力を育てる土台となると考えている。

#### 保育目標

保育するにあたり、下記のようにめざす子ども像を明確にした。それは子ども達一人ひとりに「愛と信頼、感謝と希望」に満ちた生活をおくらせ、幼児期にふさわしい経験をする事で、幸福な人間としての基礎を築くことを願っているからである。

- ❖ キリスト教保育にねざした愛と命の大切さを知る
- ❖ 友達と一緒に遊んだり活動したりすることを喜ぶ
- ❖ 知的な好奇心と感動する心を持ち、主体的に考え行動する

#### 年齢別の目標

##### (3歳児の目標)

- ❖ 身近な人や自然との関わりの中で、自分の思いをのびのびと表現する
- ❖ 基本的な生活習慣を身につける

##### (4歳児の目標)

- ❖ 身近な環境に親しむ中で友達と関わり、主体的に行動する

##### (5歳児の目標)

- ❖ 自然と関わる様々な経験を通して、自分の力を伸ばしながら友達と遊ぶ楽しさを味わう

#### 2004年度「科学する心を育てる」ための保育構造図(5歳児)

—科学する心を育てるための保育内容のねらいを中心に—

本園では、カリキュラムを保育内容の5領域およびキリスト教保育の視点から構成しているため、「科学する心を育てる」ための実践研究も、この視点で取り組むことにした。

子ども達に「科学する心を育てる」ために、右記のような保育内容を構成しようと考えている。「科学する心」をキリスト教保育の中心課題である「共に生きる」ことにおき、「自然との共存」と「他者との共生」ができる子どもを、本園のめざす子ども像として考えている。



〈間引き〉—事例より—(抜粋)  
 自然の厳しさを実感しながら  
 だいごんの間引きをする幼児たち

ぎゅうぎゅうすぎたら  
 大きくならんもんね



かわいそう...  
 どうしても抜くの?

間引きすることに対して、かわいそうだとした子どもの中で、病気で幼稚園を休みがちなB男が悲しそうに言ったことがとても気になった。全部同じだいごんの葉なのに、弱いものだけを選んで抜くことが、自分が抜かれているようで悲しい気持ちになったのではないだろうか。子どもたちは自分達が育てた葉っぱに、それだけ愛着を感じていたことがよくわかった出来事であった。

#### ポイント

宗教的情操教育として取り組まれていた保育内容を、「科学する心」という視点で新たに捉えなおし、保育目標の中に多くの「科学する心」があることを見出しています。また各領域のなかでは、「科学する心を育てる」子どもの姿を明確にイメージしています。子どもの思考・行動だけでなく、子ども同士の人間関係にも目が注がれています。